

熊本県人口ビジョン【概要版】

I 人口の現状

2014年の人口 179.4万人

1998年を境に人口減少
4人に1人以上が高齢者(総人口比28.1%)

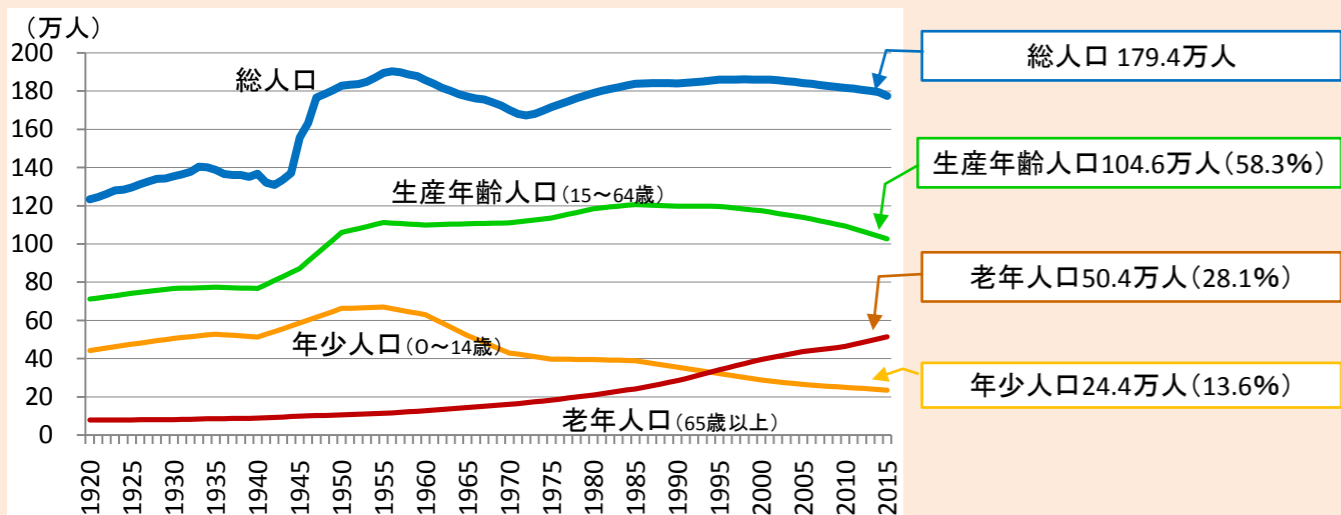
①自然増減 ▲4,903人

- 合計特殊出生率 1.64(全国 1.42) ⇒ 2005年(1.46)から上昇も人口置換水準に及ばず
- 初婚年齢 男30.3歳、女28.8歳 ⇒ 40年前に比べ約4歳上昇
- 母親の第1子出生時年齢 29.5歳 ⇒ 20年前に比べ約2歳上昇

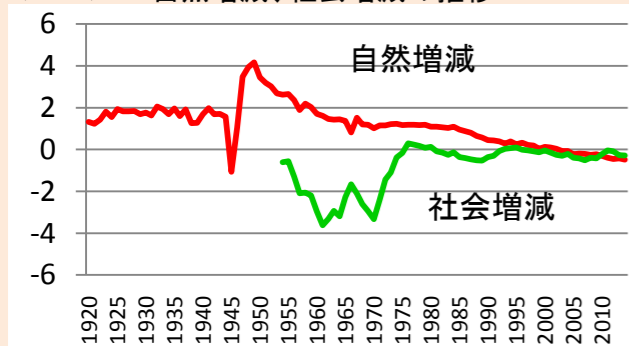
②社会増減 ▲2,861人

- 転出超過先 東京圏1,697人、福岡県1,380人、中部434人等 ⇒ 転出超過の半数が東京圏
- 転出超過の主な年齢層 15歳から24歳3,744人 ⇒ 転出超過は若年層に集中
- 県内高校卒業者の県外就職率 39.1% ⇒ 全国第6位の県外流出
- 県内大学卒業者の県外就職率(2013年) 55.6% ⇒ 大学生の半数以上が県外へ

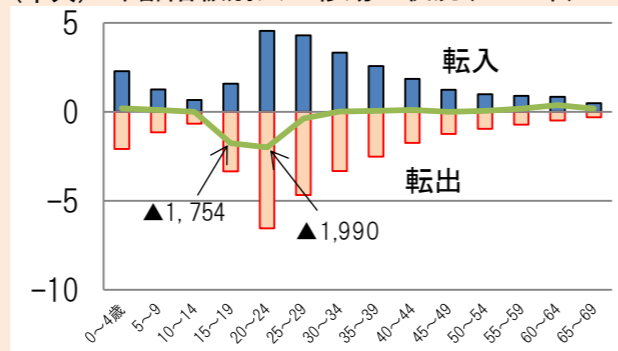
年齢3区分別人口の推移



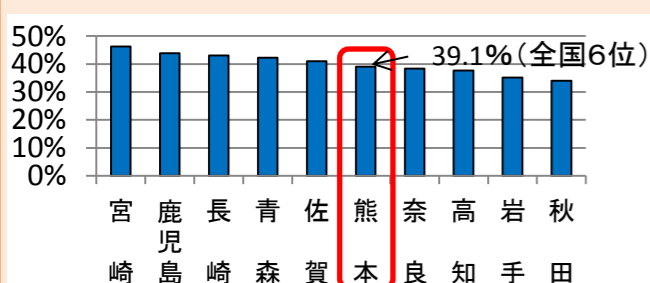
自然増減、社会増減の推移



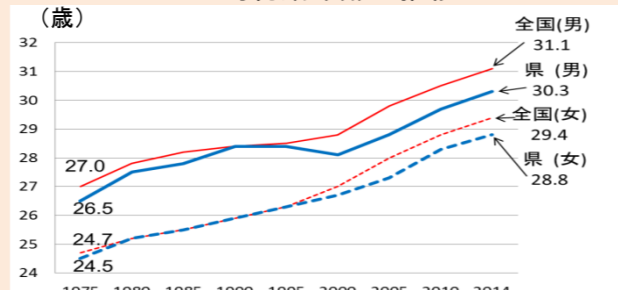
年齢階級別人口移動の状況(2014年)



県内高校卒業者の県外就職率(上位10県・2014年)



平均初婚年齢の推移



II 人口の将来展望

2060年の人口 144.4万人

このまま何も対策を講じなければ、**2060年の人口は117.6万人まで減少**

(国立社会保障・人口問題研究所(社人研)推計準拠)

【人口減少の影響】

- ◇生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地域経済規模の縮小
- ◇担い手の減少に伴うものづくり分野の技術・技能の継承困難
- ◇老年人口増加に伴う医療福祉分野の労働力不足、社会保障費の一人当たり負担増
- ◇地域活動の担い手の減少に伴う地域コミュニティ維持・存続困難、地域文化の継承困難

めざすべき将来の方向

- I 県民の結婚・出産・子育ての希望を実現する
- II 熊本への人の流れを創るとともに、人材の流出を抑制する
- III 熊本の発展を支える産業と、魅力ある雇用を創出する
- IV 県民が誇りを持ち安心して暮らし続ける地域を創る

【将来展望の仮定】

- ◆合計特殊出生率 **2030年 2.0**
(出産に関する希望の実現)
- ◆合計特殊出生率 **2040年 2.1**
(出産に関する理想の実現)
- ◆社会減 **2020年以降にゼロ**
(2020年までは1/2に縮小)

【将来展望】

- ◆**2060年の人口 144.4万人**
- ◆**長期的には2080年頃から140万人弱程度で概ね安定**

熊本県総人口長期推計と将来展望

